



庄原市医師会 会長  
もうり あきお  
毛利 昭生

# カプセル内視鏡 って 知っていますか？

## カプセル内視鏡



私が70年代に消化器内科を専攻し始めたころ、早期の胃がんを胃バリウム検査や胃内視鏡で診断できるようにになりました。転移の危険性はないものの、最終的には進行がんと同様に外科医に開腹してもらい、胃を切除してもらいますが、患者さんには機能的な後遺症を残すことになり、内科医として早期発見のメリットに何かスッキリとしないうるものを感じていたことを思い出します。

それから30年近くが経過して、90年代末頃から早期の胃がんはスネアと呼ばれる金属製の輪を用いて内視鏡で局所切除ができるようになり、患者さんにとっては大変な負担軽減になりました。その後の発展は目覚ましく、大腸内視鏡によるポリプや早期大腸がんの切除なども可能となり、消化管内視鏡は診断と治療の両方ができる大変な

武器になってきました。しかしながら、上からも下からも内視鏡の届かない遠い場所が残っていました。そう、小腸です。2011年に飲み込むタイプのカプセル内視鏡が開発され、臨床で使われています。小腸用は大人の小指の第1関節くらいの大きさで、先端にレンズが付きバッテリーが内蔵されています。1秒間に2枚の写真を自動で撮影し、撮った画像は体外に携帯している機械に記録され、あとで解析します。カプセル自体は体外に排出されます。

このカプセル内視鏡の登場で、ポリプなどの病気を楽に見つけられるようになりました。ただ、ポリプを取るような治療はできません。将来はカプセルから器具が出て、組織の採取や治療ができるのではと期待されています。

(参考) 庄原市の胃がん、大腸がん検診実施状況 (平成24年度)

胃がん 検査者数 2,713人  
がん (またはがんの疑い) 発見件数 6件

大腸がん 検査者数 3,403人  
がん (またはがんの疑い) 発見件数 18件

庄原市でも検診によってがんが毎年発見されています。がんの早期発見のために検診を毎年受診しましょう。